

# 港湾事業の概要

港湾空港課

## 1. 青森県の港湾について

### 港湾事業の目的

港湾事業は、交通の発達及び国土の均衡ある発展を目的とする港湾法に基づいて、港の整備、保全を行っている事業である。

### 県内の港湾と港湾事業

県内の港湾と、主な港湾事業のメニューは、下表のとおりである。

	重要港湾（3港）	地方港湾（11港）
港 格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の海上輸送網の拠点</li> <li>・国の利害に重大な関係を有する港湾</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要港湾以外の港湾</li> </ul>
港 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森港・八戸港・むつ小川原港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大湊港・大間港・野辺地港</li> <li>・川内港・小湊港・尻屋岬港*</li> <li>・七里長浜港・深浦港*</li> <li>・子ノ口港・休屋港・仏ヶ浦港</li> </ul> <p>(*は避難港も兼ねている)</p>
主 な 事 業 メ ニ ュ ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾整備事業</li> <li>・社会資本整備総合交付金事業</li> <li>・地域自主戦略交付金事業</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資本整備総合交付金事業</li> <li>・港整備交付金事業</li> <li>・地域自主戦略交付金事業</li> </ul> <p>など</p>

### 県内の港湾物流の動向

県全体の港湾物流の現状を港湾取扱貨物量で見ると、下表のとおりである。

(H.23年実績)	外貿貨物	内貿一般	内貿フェリー	県合計
港湾取扱貨物量 (千トン)	5,967	12,826	37,988	56,781
シェア	10%	23%	67%	100%

### 県内港湾の将来ビジョン

近年の環境変化をふまえて、今後、本県港湾の目指す方向性として、以下の方針を掲げ、それぞれの地域に応じて役割分担して取り組んでいる。

- ・国際物流機能の強化
- ・フェリー機能の高度化
- ・産業の振興
- ・港まちづくりひとづくり
- ・港を活かした観光振興
- ・臨海部における防災機能の強化

## 2．大間港（今回評価対象箇所）の概要について

### 大間町及び大間港の地勢、沿革

大間町は、本州最北端に位置し、津軽海峡を約18km隔て北海道汐首岬に、また約35km隔て函館市に相對している。大間港は、その天然的港湾形状と地理的關係から、往時より北海道との間に船舶の航行が頻繁に行われており、昭和39年には、国内最初の外洋フェリーとして大間・函館間にフェリーポートが就航している。

### 大間港の位置付け1（フェリーのための港湾）

大間と函館を結ぶフェリー航路は、函館を起点として本県へ至る国道279号、338号の海上区間であり、国道と海上交通路の結節点としての大間港は重要である。一方、フェリー航路は、大間町民にとって、福利施設の充実する函館市への身近な交通手段であり、買い物や通院など日常生活と密着した生活航路としての役割も担っている。

現在、老朽化した船舶に変わる新船建造が進められており、新造船の運航上必要となる岸壁等の改良を行っている。

### 大間港の位置付け2（漁業のための港湾）

大間町は、津軽海峡という良好な漁場に恵まれ、沿岸漁業が産業の主体をなし、近年は特にブランド化された「大間まぐろ」が全国的にも有名である。この地域にあっては、海への玄関口、あるいは水産活動の拠点としての大間港も重要である。

このため、港湾事業では、漁船対応の施設整備と老朽化施設の改良事業も行っている。

### 大間港の港湾整備実施上の課題

大間港の整備は、以上の状況を考慮し漁業とフェリーとの調和を図ること及び漁船とフェリーの安全確保を図ることに留意して事業実施している。

しかし、近年の財政事情の中では、町負担金の確保の面などで、両者を十分進捗させるのが難しい状況にあるため、現在は、フェリー新造船が利用する岸壁等の改良を重点的に行い、この完成を迎える平成25年度から漁業関連施設の老朽化対策を重点整備する計画で進めている。